

環境研究総合推進費「5-2204」

「魚類に対する環境医薬品の影響評価法開発に関する研究 ～環境分析・分子応答・行動/繁殖解析による融合評価基盤の構築～」シンポジウム

環境中に存在する医薬品由来の化学物質は 野生魚類にどのような影響を与えるのか



主催：環境研究総合推進費5-2204 環境医薬品研究チーム

共催：北海道大学獣医学研究科

日時：2023年11月25日13:30-17:00

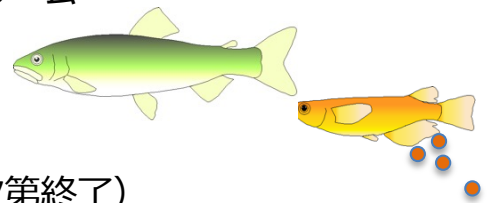
定員：会場参加80名、参加費：無料、

申し込み締め切り：11月20日（会場参加は定員になり次第終了）

申し込み：会場参加 <https://forms.gle/eLAX2Wsf4mExp5hSA>

web参加 https://zoom.us/webinar/register/WN_AVWjQEeTFW51XzHela4cw

場所：北海道大学獣医学研究院 講堂（札幌市北区北18条西9丁目）



趣旨：医薬品は、私たちの病気の治療や健康管理に必要不可欠なものです。それらは私たちが使用した後に、下水処理場を経由して水界に運ばれます。このような医薬品由来の化学物質を「環境医薬品」と呼んでいます。近年、これらの化学物質は新たな環境汚染物質として、水界に生息する野生生物に影響を及ぼすとの指摘がなされています。しかし、どの様な環境医薬品がどの程度水界に存在するのか、それらは野生生物にどのような影響を与えるのかは、詳しく調べられていません。本シンポジウムでは、私たちが進めている環境医薬品の自然界での動体とその魚類への影響について、調査・実験によって得られた成果を報告するとともに、みなさんと医薬品のあり方について考えたいと思います。

プログラム（司会：村田良介/長崎大学）

13:00 開場

13:30 開始 趣旨説明・環境医薬品問題の現状・・・征矢野清（長崎大学）

13:45-14:30

セッション1「環境中に存在する医薬品の実態」・・・井原賢（高知大学）・神奈川大学（中田典秀）
実際の測定と魚に及ぼす影響の強度

14:30-15:15

セッション2「医薬品の魚類の体の中での動態」・・・宮川信一（東京理科大学）・井原賢（高知大学）
魚類の体内に取り込まれた医薬品はどのような振る舞いをするのか？

15:25-16:10

セッション3「医薬品が魚類に与える影響」・・・長江真樹（長崎大学）・薙平裕次（高知大学）
医薬品は魚類の行動や繁殖に影響を与えるか？

16:15-16:55 パネルディスカッション・・・ファシリテーター 征矢野清（長崎大学）

話題影響「世界の環境化学物質汚染の実態」石塚真由美（北海道大学）

テーマ①：新しい水域汚染物質としての環境医薬品

テーマ②：医薬品との付き合い方

17:00 閉会挨拶・・・石塚真由美（北海道大学）

問い合わせ：長崎大学 環境医薬品研究事務 095-850-7328
高野（chenmiyukiko922@nagasaki-u.ac.jp）